



「未来」という言葉からいちばんに何を連想されるでしょうか？ いま、この言葉が行政組織に付けられるのがトレンドになっているようです。相模原市でも2017年の4月に行われた組織改編で「こども・若者未来局」が生まれました。

2年目も半ばを過ぎましたが、この名称、市民にまだまだ馴染んでいないようです。そもそも、市は、「未来」の文字にどのような思いを込めたのでしょうか？ こども・若者たちの貧困が社会問題化するなかで、行政ができることと市民ができることを、まさに、「未来」に向けてどうつながっていくのか。10月初め、こども・若者未来局に鈴木英之局長を訪ねてお話を伺いました。

人の一生はおおよそ 30000 日…そのうちの 10000 日を あとの 20000 日がその人らしく生きられるよう支えたい

～こども・若者未来局 鈴木英之局長インタビュー～



—「こども育成部」から「こども・若者未来局」となり、その初代局長になられたのですね。それまで健康福祉局の福祉部長でした。役所人生のなかでは、相模原市民文化財団の立ち上げにかかわったり、教育委員会にいて、小学校の登下校時の自治会のみなさんによる見守りの仕組みづくりをしてきました。

教育委員会にいたときに3.11の大地震があり、放射能に関する1000本の電話、200件のメール対応をしました。行政は市民の信頼なくしては、やっていけないと考えています。また、福祉部長をしたときに、やまゆり園事件があり、数多くの取材を受けました。事件については、何故ということを考えています。

—福祉、教育と行政マンとしてやってこられて、「未来局」としてどんな取組みをされているのですか？

母子保健から若者支援までライフステージとして捉えてトータルに支援することを考えています。18歳までが子どもだから18歳までを支えるということではなく、その後の社会参加、社会人として自立できる力を培っていきけるように支援を考えるということです。若者にしても、将来にわたり生きていける力を持てるよう支援するということです。以前参加した講演会で教えられたことがあるのですが、人間、80歳まで生きるとしておおよそ30000日を生きる、そのうち

の10000日の毎日を支えて、あとの20000日を生きていく力、その人らしく生きてほしいのです。

未来を考えるためには、現状を知ることが必要です。アンケートを実施して、貧困問題、ひとり親家庭など孤立家庭の支援を子どもたちの居場所づくりでやっていけないかと考えています。そのために、社会福祉協議会や日本シングルマザー支援協会、他部署機関と連携しながら問題解決していこうとしています。

子どもたちへの支援というのは、親御さん支援でもあり、寄り添っていくことが必要です。「窓口に来てください」ではなく「こちらから伺います」の姿勢で、気づいたことがあれば情報もほしいですね。

—子ども食堂や無料学習塾など市民活動によるものもありますが、市民だからできること、行政だからできることとあると思うのですが、どのようにお考えですか？

内閣府のHPでも相模原市の事例が紹介されていますが、子ども食堂や無料学習塾への支援を行っています。お金さえ出せばいいということだけでなく、行政として専門的知識や枠組みの構築を担当し、市内の子ども食堂・無料学習塾の情報交換ができるような集まりも開催しています。

市としても、8月から来年3月にかけて、大手学習塾による中学2,3年生を対象にひとり親家庭への学習支援を行っています。現在100人が利用し、ひとり当たり90分間の指導を32回受けられるようになっています。

市内には21地区のまちづくり会議がありますが、それぞれの地域によってもその生活課題は異なります。その地域性をよく理解することも必要だと考えているところです。子どもたちの朝食抜きの問題についても、これから検討していく課題はたくさんありますね。

「地域子供の未来応援交付金」を活用し、団体の活動支援や市民意識醸成

子どもの居場所に関する総合相談窓口の設置
・新規開設の問い合わせ対応
・一般市民、実施中の団体からの問い合わせ対応
・開設に必要な情報を網羅した手引き書の作成

子どもの居場所に関するセミナーの開催
※民生委員児童委員、社会福祉協議会職員、子どもの居場所立ち上げ予定者等を対象

子どもの居場所マップの作成
※市ホームページ上で各種取組の活動紹介

情報交換会を実施(年5回)し、意見・情報集約
※子供食堂、無料学習支援団体、市(学校教育課、地域福祉課、こども家庭課)、民間団体(フードバンク)等を構成員とし、団体間の相互連携の推進

相模原市

立上げを検討中の市民



「地域活性化事業交付金」を団体へ交付

学習支援事業



子供食堂



子どもの居場所

相模原市では、平成30年度から、「地域子供の未来応援交付金」(内閣府)を活用して、「子どもの居場所に関する総合相談窓口」を設置して、新規開設等に関する問い合わせ、一般市民、実施中の団体からの問い合わせに対応するとともに、子どもの居場所の担い手を対象とした「子どもの居場所に関するセミナー」を開催し、新たな居場所の開設を促す。さらに、支援団体と行政機関が一堂に会する情報交換会を開催し、市、地域、民間団体等の連携体制の整備・強化している。

《国及び地方公共団体による「子供の居場所づくり」を支援する施策調べについて h30.7.25 内閣府より》



☎050-5307-2233



いま
こどもたちの現在に思いを馳せつながる人びと

津久井こども食堂（中野）

みんなの場 であと

市
20
7月1
総
中
南
※

こどもが主役♡

こどもにとってどうかがいちばん

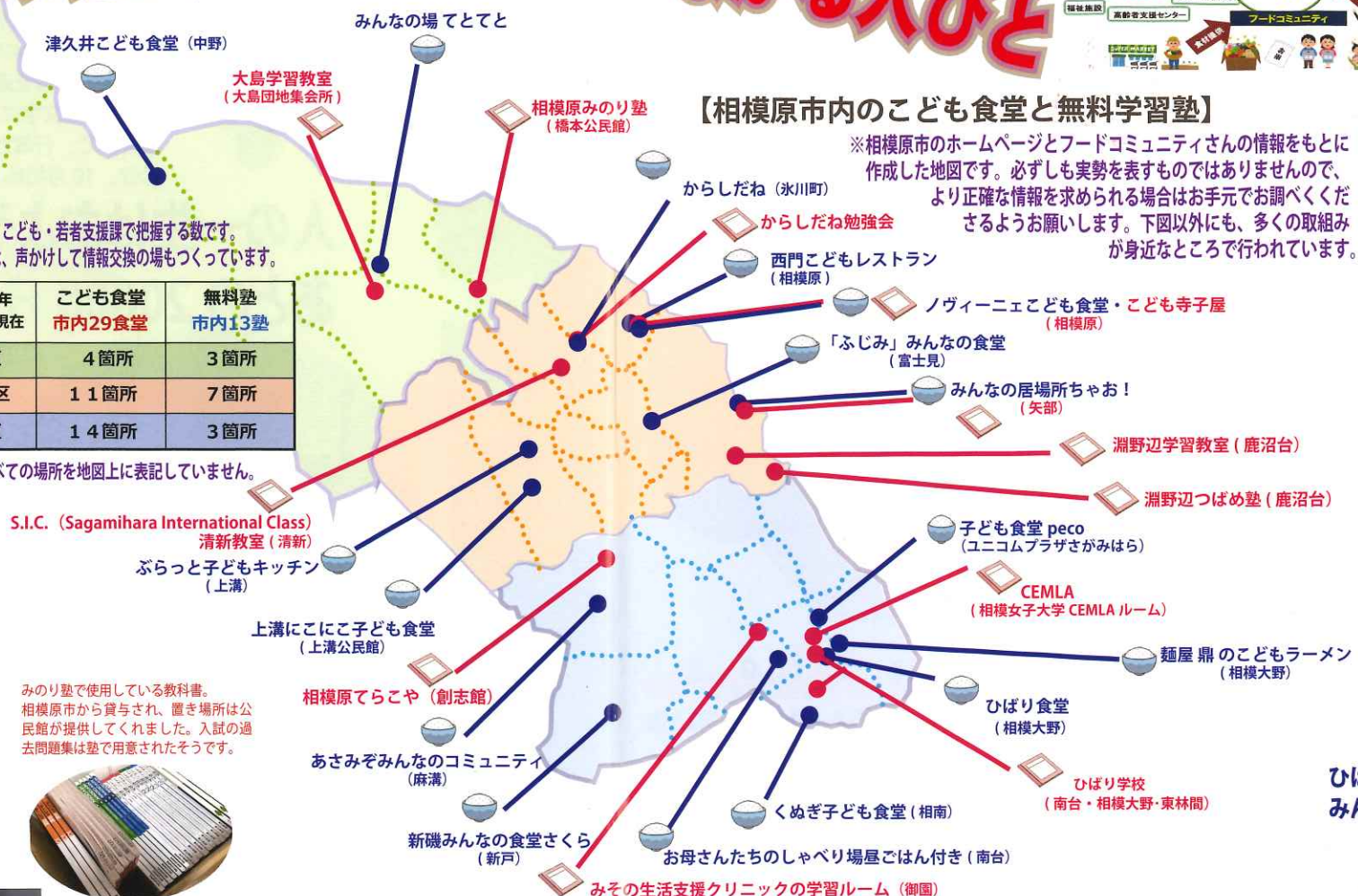
2018年 7月1日現在	こども食堂 市内29食堂	無料塾 市内13塾
緑区	4箇所	3箇所
中央区	11箇所	7箇所
南区	14箇所	3箇所

S.I.C. (Sagamihara International Class)
清新教室 (清新)
ぶらっと子どもキッチン
(上清)
上清にこ
()
みのり塾で使用している教科書。
相模原市から貸与され、置き場所は公
民館が提供してくれました。入試の過
去問題集は塾で用意されたそうです。



福田さんは、こどもたちに向かって「いい子、かわいい」を連発。「勉強は教えられるだけだし、人生相談にのってあげるんだ」と語ります。左端の小林さんは、民生委員 10 年・自治会役員 20 年と地域に貢献してきたベテランです。「人生経験だけはあるし、こどもたちの安全を守り、学校のタイムキーパーですよ」と元氣な笑顔をみせてくれ、90 歳まで頑張るつもりです」と。高齢者としてはい申ししないような前向きさで、こちらが大いに助かっています！

※相模原市のホームページとフードコミュニティさんの情報をもとに作成した地図です。必ずしも実勢を表すものではありませんので、より正確な情報を求められる場合はお手元でお調べくださるようお願いします。下図以外にも、多くの取組みが身近なところで行われています。



☎070-4481-4094



左から代表の中臺（なかだい）さん、
メンバーの布施さん、中澤さん
（さがみはら市民活動サポートセンターにて）

するとくらしの課題が見えてくる
顔が見える関係で食材を提供する

実際の活動の担い手が活動を回していくのに手一杯なら、そんな情報提供は手助けになるはず。すなわちネットワーキング。担い手の主体性を尊重しながら、思いがあって余裕のない人たちに寄り添う——そんなネットワークの結び目となるのが「食材の運搬」というわけです。4人で始めたメンバーは2年で3倍に。自宅を食材倉庫にして、食品衛生責任者の資格も取得したとか。「人間性を売り込むんです」と会社人生で得たマネジメント力を垣間見ると、良くぞ地域に帰ってきてくださった、と、定年後の活躍に期待はふくらむばかりです。

はり学校お隣の
んなの食堂

びお食堂

ひばり食堂実行委員会
☎080-2226-9899(宮下)

カレー専門になったのは
ゆるやかに組みたいから



相模原の学校給食をよくする会

E-MAIL:sagamilunch@gmail.com



小3と中1のお母さんの緒方さん。今さんは高1と小1、藤原さんは中2、小3、年少さんと3人のお子さんのいる現役のお母さんたち3人が集まって活動を始めたのは、今年9月のこと。それぞれお子さんの通う学校は違うという3人の情報交換はSNSや大野北公民館のラウンジで。こどもたちのいる環境を肌で感じることでできる現役ママさんたちの願いは、小学校のような給食を中学校でも実現すること、です。

中学校給食が欲しい！

現在、相模原市で行われている中学校給食はデリバリー給食と言う配達弁当。あらかじめマークシート提出やネットで予約して、代金をコンビニで支払うというものです。ただでさえ、神奈川県は中学校の給食実施率が全国最下位。最下位の県内でも、相模原市のデリバリー方式もカウントされていることから、神奈川のこどもたちの食育環境は、「ハマ弁」※を引き合いに出すまでもなく、推して知るべしです。だいたい、このシステムでは、保護者の急病など弁当持参できなくなったときに対応できません。実際、2017年に学校保健課が調査したところ、1か月に25人の欠食生徒がカウントされたそうなのです。「どうこい給食」※が実

※ハマ弁・横浜市の、市立中学校で給食代わりに提供している配達弁当。冷たい、少ない、まずい、と利用率は低迷。公費投入が問題化している。

現した温かさはどこに行ってしまったのか。

親子方式で得るもの、失うもの

相模原市の小学校は多くが自校方式で給食がつけられています。つまり、小学校のなかに栄養士さんがいて、調理室があって、給食のいい匂いがしてきて、温かいうちに食べることができる——だから、給食が「親子方式」になると聞いたときには、てっきり、小学校の給食がそのまま中学校で食べられるのかと思って歓迎してしまったとか。馴れない中学校生活を馴れた給食が支えて、一貫した食育環境が期待できるかとところが、市のいう「親子方式」とは、小学校の給食室をまとめてしまうミニ給食センター化だったのです。それに、近隣の学校同士の組み合わせは困難では...？ 学校に調理室のある意味は大きいのです。こどもたちにとっての食育環境としてだけでなく、大災害時の備えとしても期待できるものなのです。

こどもたちの健康を願うママたち

「町田市の中学給食の実現をめざす会」ともつながっている現役ママさんたち。弁当を作りたい、作りたくないの問題ではなく、わが子の健康のために、病気にさせない親子ともどもラクに生きていけるように、と、これから調査をしたりする仲間が欲しいそうです。現役ママ、フレッツ、フレー！



※大野北公民館にて話し合うメンバー



ママさんたちに教えてもらいました！

※どうこい給食って、なに？

相模原市内初の学校給食を実現したのは淵野辺小学校。前身の旧・大野第二国民学校・校長が欠食児童の存在に一念発起。出羽の海一門を招いて興行相撲を開催。収益で「全てのこどもたちに給食を食べさせたい」という夢を実現させた。同小学校は、60年目にあたる2016年6月には、出羽の海部屋の力士4人を招いて「どうこい給食」と銘打ち、給食開始に感謝する記念給食を振る舞うイベントを行った。

Information

ここずっとの映像作品バリアフリー化事業のいま

原則バリアフリー上映を目指す〈ここdeシネマ〉。上映作品がバリアフリーになっていないときは、自前で聴覚障がいの方のための字幕、視覚障がいの方のための音声ガイドを用意します。そうしていることを知って、なんと、現在、公開中のドキュメンタリー映画『愛と法』（監督・戸田ひかる）字幕と音声ガイド制作依頼を受けました！そして10月26日には、市内聴覚障がいの方にも参加してもらって、モニタリングを実施。（写真）いやー、心があたたかくなるゲイ・カップルの弁護士夫婦。見所いっぱい作品です。いよいよ、これから音声ガイドづくりに入ります。関心のある方、寄っといで！

南地区福祉ラウンジで行われた字幕のモニタリング風景。



さあ 次は音声ガイドづくりにGO！

★★ここdeシネマに行くとお店でサービスしてもらえらうしいー そうです！ 映画と半券サービスで二度おいしい！！

次回 は 樹木希林特集 上映会だよ！

ここdeシネマ 第12回は

2019年3月22日(金)

会場:相模女子大学グリーンホール・多目的ホール

『人生フルーツ』『居酒屋ばあば』

上映の詳細については 改めてお知らせします

『フリー情報紙 ここずたうん』 No.17

【発行日】2018年11月



【発行者】NPO法人ここずっと

〒252-0303 相模大野9-6-18

ここずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は
ここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp

クリップ・ボード

やまゆり園のあるまちだからこそ
NO!ヘイトスピーチ!

2018年10月27日に設立
反差別相模原市民ネットワーク
事務局 ☎090-1458-6761(田中)
hansabetsu.sagamihara@gmail.com

来春の統一地方選挙において相模原市内3区すべてに立候補を予定している「日本第一党」は、レイシストグループ「在日特権を許さない市民の会」の後継団体で、選挙運動においてヘイト活動の流布・宣伝を行うことが予想されています。

そのことに不安を抱く市民が、9月23日ユニコムプラザさがみはらに神奈川新聞記者・石橋孝氏を招き講演会を開催。その参加者に呼びかけ、相模原からヘイトスピーチをなくし、どのような人とも暮らしていくことができる差別のないまちづくりを目指す市民ネットワークを立ちあげました。あえて会費も規約もつけないネットワークとしたのは、ひとりひとりの気持ちを大切にしたいから。反差別のためにゆるやかに固く。関心のある方、ご連絡ください。

映画『コスタリカの奇跡』をシェアする会

軍隊を持たない国・中米コスタリカを描くドキュメンタリー映画を年間を通じて鑑賞したり、講演会を開催しています。

お申し込み: ailes.courage@gmail.com
☎080-3018-3569 (羽生田)

■映画上映会

11月19日(月)、12月17日(月) AM10:00~12:30

11月27日(月) さがみはら AVスタジオ 定員12名(予約優先)

■伊藤千尋さんを招いて講演会「コスタリカに学ぶ」

12月23日(日) 14:00~ サエルさがみはら

2019年1月14日(月・祝) 14:00~ 11月27日(月) さがみはら



●半券キャンペーン参加事業者募集中です！
●ここdeシネマ開催ボランティアも募集中です！

